

## 6) ワカサギの仔稚魚の分布状況

井出充彦・山中 治

【背景】琵琶湖でのワカサギの産卵は'95年3月に知内川、安曇川、和邇川の下流部で初めて確認されたが、湖内での生態は不明な点が多い。

【目的】ふ化後の仔稚魚期の動向を把握することによって琵琶湖での再生産を確認するとともに、生態解明の基礎資料とする。

- 【成果概要】
1. 沖合調査：'95年5月18日および30日に犬上川-安曇川間6地点、石田川-姉川間5地点で、口径0.7m、長さ3.5mの稚魚ネットを用い、1地点10分間、対水速度0.8m/sで表層曳きを行ったが、仔稚魚は採捕されなかった。
  2. 沖合調査(夜間)：5月24日19時48分から翌0時49分にかけて角型稚魚ネット(縦1m×横2m角口、長さ8.7m)を用い、塩津湾から今津沖にかけて反時計回りに1地点10分間、合計12地点、対水速度1.6m/sで表層曳きを行った。その結果、塩津湾で2地点2尾、竹生島周辺で1地点2尾、つづら尾崎沖で1地点1尾、今津沖で2地点2尾の合計7尾が採捕された。平均体長は17.1mmであった。
  3. 沿岸調査：沿岸部において、小型の曳網(袋網部0.9m角口、片袖の長さ2.5m)を用い稚魚の採集を行った。6月に調査した延べ17地点のうち、延べ12地点で稚魚が採捕された(表1)。ヨシ帯での比較では北湖の北東端で多い傾向が見られた(図1)。一方、7月における再調査では、採捕量が6月に比べて極端に少なく、例えば近江八幡市牧町の場合、6月12日に1曳網当たり72尾であったものが、7月3日では12尾であった。
  4. 稚魚の漁獲状況：9月までに沿湖14漁協に赴き聞き取り調査を行ったところ、6漁協のエリで漁獲されていた。早い漁協では5月頃から漁獲され始めていたが、概して6月中旬から7月にかけてが多く、8月には減少していた。6月頃まで沿岸部を中心に分布していた稚魚は、6月中旬以降徐々に沖合へ移動して行き、その過程で漁獲されたものと思われる。

【成果の活用面・留意点】定点における仔稚魚の生息密度を知ることによって、年毎の相対的な資源量の増減を予測する基礎資料となる。

表1 小型曳網による稚魚の分布調査結果(6月分)

日付	地点	曳網回数	尾数	1 曳網当たり尾数	重量(g)	曳網場所	体長(mm) (mean ± s. e.)
5/06/02	水試港湾(彦根市)	2	約1000	約500		スロープ	21.1±0.1
95/06/05	海津大崎(西浅井町)	7	3	0.4	0.2	岩場	21.7±0.4
95/06/09	安曇川南(安曇川町)	2	36	18.0	2.8	ヨシ	22.6±0.2
95/06/09	新旭町	2	31	15.5	3.0	ヨシ	23.1±0.2
95/06/09	百瀬漁港(マキノ町)	1	0	—	—	スロープ流れ藪下	—
95/06/09	知内川南(マキノ町)	1	0	—	—	ヨシ	—
95/06/09	西浅井町二本松	2	0	—	—	礫浜	—
95/06/09	塩津湾浮産卵床付近	1	0	—	—	ヨシ	—
95/06/09	塩津湾奥(西浅井町)	2	0	—	—	ヨシ	—
95/06/09	湖北町延勝寺	1	2,612	2,612	193.9	ヨシ	21.8±0.2
95/06/09	姉川南(びわ町)	1	884	884	62.1	ヨシ	21.7±0.1
95/06/12	水試港湾	1	426	426	48.0	スロープ	24.3±0.1
95/06/12	能登川町	2	1	0.5	0.2	ヨシ	28.1
95/06/12	近江八幡市牧町	3	216	72.1	26.8	ヨシ・マコモ	24.4±0.2
95/06/12	草津市山田	3	4	1.3	0.6	マコモ	26.1±1.1
95/06/12	大津市衣川	3	1	0.3	0.1	ヨシ	23.5
95/06/12	大津市真野	3	13	4.3	1.3	ヨシ	23.4±1.6

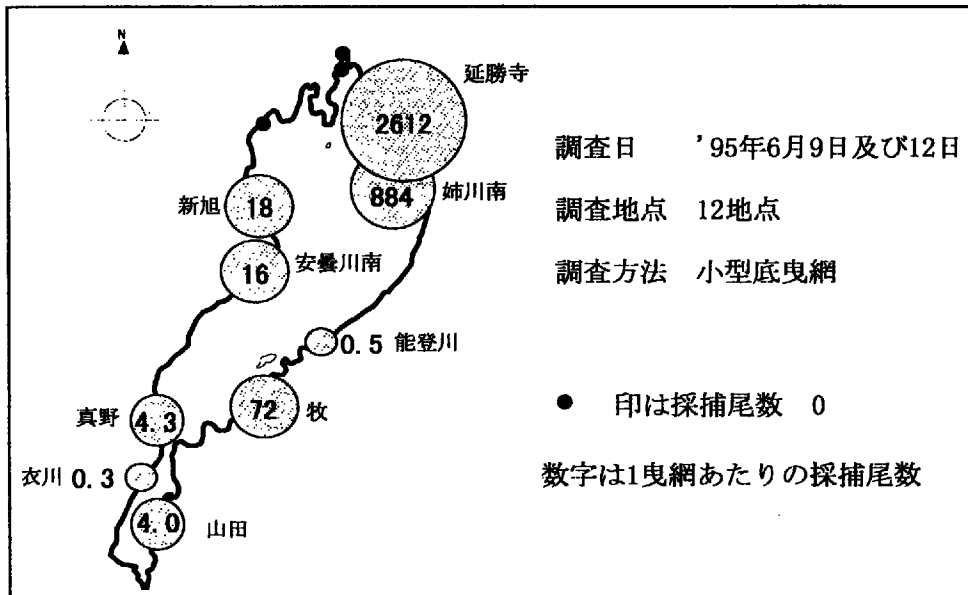


図1 ヨシ帯での小型曳網による採捕尾数の比較.

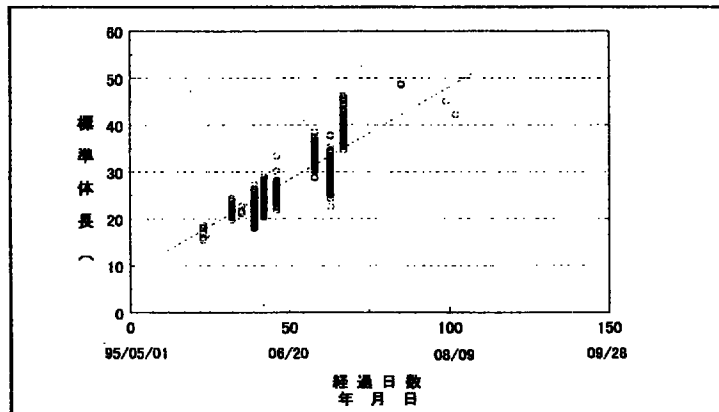


図2 稚魚期の成長.